

# 学校関係者評価書（後期）

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、予定していた後期学校関係者評価委員会は、前期同様に紙上による開催とした。学校関係者評価委員から回答用紙で御回答いただき、御意見を集約する形で評価書とした。

## 1 学習面から

（学校関係者評価委員より）

- ・児童アンケート質問4（勉強がわかった）、5（文字や漢字、計算のしかたなど、おぼえることができた）、保護者アンケート質問5（学習した文字や計算などが身についたか）の数値低下が気になる。児童の能力だけの問題ではないと思うが、学校、家庭での学習環境（PC化、親の共稼ぎ等）により児童一人一人に寄り添った教育が低下してきたことも影響しているかもしれない。学校としてももっと掘り下げて考えてみる必要があるのではないか。
- ・保護者アンケートの質問項目5については、否定的な回答が増加していることが気になった。評価分析でも触れられているが、宿題の出し方の工夫が、学校として取り組むことのできる改善策かと思う。
- ・教員の読書活動への意識があまり高くないことで、児童への影響があるとすれば大変残念なことだ。「教師が読む姿を児童に見せる」ために具体的にできることは何か。朝読書での読み聞かせ、担任が通信で本の紹介をする…等々。
- ・校外学習での見学場所、内容については、小中連携の中でも考え、子どもに多様な体験・経験をさせられるようにしていただきたい。
- ・ICT活用はかなり前（10年以上）から言われてきたが、学校現場ではなかなか浸透しなかった。コロナ対策をきっかけにGIGAスクール構想が進んだのは、教職員にとって最後通告と捉え、覚悟を決めてやっていかなくてはならないのではないかと思う。職員会議だけでなく、ペーパーレス化はSDGsに関連しても進め、情報の取捨選択をいかに行うかが問われることになる。

（今後に向けて）

- すでに取り組んでいるが、今後も継続して漢字の確実な習得にさらに力を入れて取り組む。
- 基礎・基本となる知識・技能の確実な習得のために、その日に授業で学んだことを宿題に出したり、自主学習でまとめたりする等、授業ではできるようになっても時間がたつと忘れてしまうので、忘れないように繰り返して学ぶようにする。
- 家庭学習定着週間が形式的になっていないか、教職員全体で振り返り、より効果的な学習ができるように改善していく。
- 読書は、県の教育振興基本計画の「豊かな心の育成」でも重点項目となっている。教職員に周知し、日々の読書活動や読書週間等への取り組みの質を上げていく。また、教師の読み聞かせ等、教職員も共に読書できる活動を読書週間に取り入れる。
- ICT活用は、各学年の発達に応じて必要な場面で活用が進んでいる。教員もICT研修や様々な研修会をオンラインで行う機会が増え、教職員全体の活用能力は着実に進歩してきている。今後も、効果的な活用とICTの弊害（コミュニケーション能力低下、目の健康等）に留意して取り組んでいく。
- 校外学習の内容は、目的をもとに今年度の反省をふまえ、改善できる部分は改善しながら質を高めていく。

## 2 生活面から

(学校関係者評価委員より)

- ・少数ではあるが、質問項目7(困ったこと、いやなこと)と18(暴力でつらい思い)の悪い評価が増えたことが気になった。評価分析にも記載があったが、早期解決に向けた対応をお願いしたい。
- ・あいさつできるよい雰囲気が、あいさつの声の大きさに伴い、少しずつつくり上げられているのはとても良い。
- ・あいさつについては、学校や地域の人たちの協力が表れていると思う。
- ・地域により、多くの子どもたちはあいさつできているが、ほんの一部の子ができていない。
- ・毎日の登校班の集合時間に遅れる子どもがいる。家庭の問題か。
- ・1回のゲーム時間を聞くと、低学年でも長時間で驚く。また、ゲームが13歳以下不可とあってもほとんどの子どもがしていると聞き、心配になる。
- ・早寝・早起き・朝ごはんへの否定的回答が増えているのは大変気になる。不易な生活習慣として、小学校の時にぜひ身につけさせたい。

(今後に向けて)

- 児童アンケートの結果で気になる回答については、すべて児童に確認して対応するとともに、生徒指導委員会で共有してきている。今後も教職員全体で取り組む。
- SNSやオンラインゲームの危険について学ぶ「ほっと！ネットセミナー(県教育委員会生涯学習課)」を5、6年生に情報モラル教育として行うが、全校保護者にも参加を呼びかけて保護者と知識を共有し、子どもたちの心身の安心・安全を家庭と学校で守る。
- あいさつについては、今後も児童会の取り組みや日々の生活で粘り強く取り組んでいく。地域の皆様にも引き続き御協力をお願いしたい。
- 今後も早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣向上のために、各学年と保健室から各家庭に情報を発信していく。

## 3 安全・安心面から

(学校関係者評価委員より)

- ・登下校の安全について(去年、全国的に事故が多く問題になった)、登校時は南湖小学校児童もまあまあ良いが、下校時は注意が必要ではないか。
- ・自転車の運転マナーで、一部にヘルメットをしていない子どもがいる。大事故につながらないうちに100%の着用にしたい。
- ・安全管理から、登下校時に保護者や地域の人たちの見守りが必要だと思う。富士川町では、保護者や地域の人たちが見守っている。
- ・通学路の一部がグリーンベルト化され、児童の安全が少しではあるが確保されたことはよいが、利用する児童がその意味(理由)を理解していなければ意味がない。特に下校時は、車道まではみ出している。運転する側が気を付けていてもふざけていて道路に飛び出したときは事故を防ぐことができない。一層の指導をお願いしたい。
- ・登下校時のはみ出し等を児童が注意しても、聞いてくれない児童がいると聞いていることがある。

(今後に向けて)

- 集団下校のしかたについて教職員で問題意識を共有し、安全な下校について粘り強く指導する。上級生児童の安全な登下校への意識を高めるとともに、下級生児童は上級生の指示を聞くことを指導する。

- コロナ下で開催できていない「児童安全委員会」を実施する。児童安全委員会は、南湖地区の児童の安全を見守る各組織の集まりなので、実情を説明し、御協力をいただく。
- 登校班編制のための各支部会議時に登下校の反省をしてもらい、集合時間を守ることや下校のしかたについて、児童に意識を高めてもらう。

#### 4 その他

(学校関係者評価委員より)

- ・職員が厳しく自己評価をし、課題をとらえていると感じた。
  - ・教職員自己評価が、コロナ前の教育活動と比較した評価と、現状での教育活動の評価と評価基準、考え方があいまいになっているとの分析については、今後の評価にぶれが生じないような取り組みをお願いする。
  - ・「評価基準のダブルスタンダード」については、現状のコロナ下、今後の with コロナを考えての評価が大切と考える。
  - ・コロナ禍の中、学校教職員の皆様には、子どもたちのために前例のない取り組みに日々奮闘いただき感謝申し上げます。(同様意見他に2)
  - ・アンケートの項目、質問のしかたをどうするかは、学校教育目標、不易と流行の課題を織り交ぜ、検討しなくてはならない。修正・工夫しつつ考えていただきたい。
  - ・水害時の避難タイムテーブルを作成したのは素晴らしい。複数の川が合流する南湖地区(南部)の地域性とハザードマップを活用して理解することは、他の災害についても考えるきっかけになるのではないだろうか。
- (今後に向けて)

- 教職員の自己評価については、評価の基準を明確にして実施する。
- アンケートの質問文の表現を変更する。「児童はこうなったか。」という完成的な質問表現ではなく、「今、現時点でどうか。」という表現に変更することで、保護者が、現時点のお子さんの様子で判断・回答できるようにする。質問内容については、今のところ変更する予定はない。